



小児救急看護 認定看護師

オレンジ病棟 城尾 優理

現代は核家族化・少子化の中、子どもと家族・子どもを取り巻く育児環境は、多くの支援が必要になってきています。「小児救急」というと救急外来にいる子どもだけが対象と思われがちですが、病気になる子どもとその家族・環境を対象と考えています。子どもたちの健やかな成長のために、適切な場面で、状態に見合った関わりをすることが小児救急看護認定看護師の役割といえます。

私は今、小児と成人の混合病棟で勤務しています。その中で、多くのお子さまと会う機会があります。お子さまのけがや病気のときは直接的な看護、ご家族には育児の相談や支援など、専門的な関わりが必要な時、自分の小児救急に關する知識の引き出しの中から必要なことを意識し、提供するようにしています。

活動の場は広くまだ手探り状態ですが、お子さまとご家族が、その子らしくそのご家族らしく笑顔でいられるよう、小児救急看護の立場から支援していきたいと思っています。

むさしの 世界赤十字デー・看護週間イベント ふれあい赤十字デー



当院医療看護推進活動パネル展示

5月14日(土)今年も「世界赤十字デー&看護週間」に合わせ、武蔵野赤十字病院では「むさしのふれあい赤十字デー」を開催致しました。

今回は、東日本大震災における救援活動について新たにブースを設け、当院の救援活動の様子や救援物資の展示などを行いました。



入院看護相談

看護師 勢川 政美
小児 立石恵子
小森 景子

外来で行っている「入院看護相談」をご存知でしょうか？これら入院して手術や検査を受けられる患者様やご家族に、手術や検査に向けての準備やスケジュール、入院までの生活についてご案内し、ご不明なことや、ご心配なことなどについてご相談をお伺いしています。場所は入院受付の中にあります。

相談窓口を担当する看護師は、手術センターや病棟、外来（外科系、内科系、心療内科など）の勤務経験があり、さまざまな看護の経験を生かして、皆様のご相談に対応させていただきます。

手術や検査のことだけでなく、入院生活やご家族の面会方法、治療費、治療後の生活や、診察室ではお話できなかったことなど、ゆくりとご相談ください。ご希望に応じて、事前の入院病棟の見学なども行っています。患者さんには安心して入院生活をお送りいただけるように、入院される病棟や担当医師、医療連携室など関連する部署と連絡を取り合っています。

また、安全に手術・検査を受けられ、早期にご自身の生活に戻っていただけるよう、外来からの「つながる看護」をモットーにお手伝いします。

肝臓病について無料の相談を行っています

肝炎・肝臓について知りたい方、検診で肝機能異常を指摘された方など、肝臓について気になることは、ご連絡なくご相談ください。

電話：0422-32-3135

平日（月～金）午前9時30分～16:00時まで
武蔵野赤十字病院 肝疾患相談センター



2011年 夏

季刊 情報誌



武蔵野赤十字病院

〒180-8610
東京都武蔵野市境南町1-26-1
TEL 0422-32-3111
発行 総務課 広報係

アイ
Eyeむさしのは患者さま向けの情報誌です
ご自由にお持ちください



私たちは病棟の新人看護師です。毎日慣れない仕事で大変ですが、患者さんの笑顔に元気をいただいています。

（※表への掲載に際してはご本人の許可をいただいています。）

基本理念

- 病む人への愛
- 同僚と職場への愛
- 地域住民と地域への愛
- 地球、自然、命への愛

基本方針

- (1) 患者・家族から信頼される安全な医療を提供する
- (2) 地域中核病院としての機能向上を図る
- (3) 地域の医療機関・行政と連携して市民が安心して住める地域づくりを進める
- (4) 質の高い医療を提供するため、安定した病院経営を継続する
- (5) 働きがいがあり、成長を実感できる職場をつくる

エコプロジェクト委員会から



昨年夏、日除けとなったゴーヤのグリーンカーテン



エコプロジェクト委員長
阿原 昌弘 氏

東日本大震災により、未曾有の人的・物理的被害を受けました。被災されました皆様には心よりお見舞い申し上げます。その後、原発の問題・計画停電など、我々が経験したことのない状況が出現しており、節約や節電は生活上の合言葉となりつつあります。

エコプロジェクト委員会は、病院内の部材やエネルギー消費を減らすことを目的として活動しています。昨年の活動では、表玄関アトリウムガラス壁前のゴーヤが印象的であったように思います。成長したゴーヤは、目に優しい緑色で心和ませ、強い日差しを避ける日陰を作り、冷房効率を上げました。不要な光源を消灯すること、両面コピーの積極利用、人感センサー設置による光源の調整、冷暖房の温度設定に関する問題、便座の温度調節などを討議しておりました。

ところがこの度の大地震で状況は一変しました。節電は震災前には努力目標でしたが、震災後には電力供給の問題で、否応なく受け入れるものとなりました。より一層節約・節電をすすめる必要性があります。

節約実行の方法には二つのアプローチがあります。一つめは、消費電力の少ない大型の機材の導入など病院内の取り決めで達成されるものです。二つめは、皆さんの自発的な行動に頼る方法です。後者の方法については、個人の節約行動の習慣化が必須となります。小さな活動の積み重ねは地味ですが、そのような活動が継続して行われる風土を維持していかなければなりません。

そして病院スタッフ一同が協力して、その実現に向けてエコプロジェクトメンバーと共に行動をしていきたいと考えています。

節約・節電に関しまして新たなご提案・ご意見などがございましたら、ぜひお伝えいただきたいと思っております。



今年もゴーヤを植えました

診療科のご紹介

皮膚科の取りくみ



皮膚科部長 阿原 一哉

皮膚は脳や心臓と同じように、ひとつの重要な人体の臓器です。皮膚という臓器における様々な病気に対応するのが皮膚科です。

当院では特に、入院が必要な状態の方々、手術や様々な検査が必要な方々のためにお役に立てるような皮膚科を目指して努力しています。そのため、手荒れ、化粧がぶれ、水虫、虫刺され、タコ・イボ、軽いやけどなど、日常的な病気は近隣の開業医の先生方に治療をお任せしています。当院を初めて受診される場合には、近隣の先生方の紹介状を必ずお持ち頂くよう、皆様をお願いしています。

当科では年間およそ400～500件の手術を行っています。ほとんどが通院で行える手術です。脂漏性角化症（老化によるイボ）、色素性母斑（ほくろ）、表皮嚢腫などの良性腫瘍のほか、基底細胞癌やボーエン病などの悪性腫瘍の切除術を行っています。

また、皮膚生検という、皮膚病の診断に不可欠な病理検査のための小手術を積極的に行うよう努めています。

悪性腫瘍や症状の重いやけどで皮膚の移植が必要な場合や、麻疹（はしか）、帯状疱疹（水ぼうそうの一種）などのウイルス感染症、丹毒や蜂窩織炎などの細菌感染症、重症薬疹（薬の副作用）、全身に水ぶくれのできる自己免疫性水疱症などの病気では、抗生物質の点滴や副腎皮質ホルモン薬などを用いた強い治療が必要なため、入院して治療します。

ある日突然、皮膚の病気になってしまったら、それはとても残念で悲しいことです。しかしながら、生老病死をさけることはこの世の誰にもできません。治療の主体は患者の皆さんです。私たちは一生懸命サポートいたします。みんなで一緒に協力しあいがら病気を克服していきたいと日々願っています。